

V.G 概輪だよ

会報 第 77 号
発行日 平成 23 年 2 月 28 日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

わがまち紹介 淀川に春の訪れを告げる恒例行事 『鵜殿のヨシ焼き』 『鵜殿・上牧』

平成 23 年 2 月 20 日 (日)
JR 高槻駅⑤乗り場系統 12 番 8 時 35 分道鶴町行き乗車「道鶴町」で下車。
徒歩約 10 分 淀川堤防へ
順路 JR 高槻駅⑤乗り場↓
道鶴町↓河川敷↓阪急上牧駅へ

この鵜殿に生えるヨシは、高さが 3 m ほどの大形のヨシで太く弾力性があり、古来より雅楽の箏篋の蘆舌として使用されており、昭和 20 年ころまでは、毎年百本ずつ宮内庁に献上されていた。今でも宮内庁楽部で使用されている蘆舌は、すべて鵜殿産のヨシで作られている。昔は鵜殿のヨシで編んだヨシズが盛んに生産され、宇治の茶園や高槻市の原・塚脇地区の寒天製造に使われていました。

を目的に野焼きが行なわれていた。これは昭和 20 年代より続けられている。それ以前はヨシの他に屋根葺きや燃料の需要のあるオギまでも、殆ど刈り取られていた。このヨシ原焼きは、一九七〇年(昭和 45 年)から 5 年間中断したその結果、ヨシ原は雑草などに占拠され、ヨシの品質が低下し、絶滅の危機に陥った。このことから一九七五年(昭和 50 年)に「鵜殿のヨシ原焼き」が復活した。野焼きの面積は、上牧から道鶴町までの約 30 ヘクタール。毎年行われている野焼きだが、二〇〇一年には対岸の枚方市側住民からの降灰に関する苦情により中止されている。以後、野焼き面積を減らしたり、ヨシを刈り倒した後に点火するなど、火力を弱めるなど工夫されています。鵜殿のヨシ原焼きは、自然環境保全の点で継続される事を強く望みます。

毎年、二月に行われるヨシ焼きは、淀川に春を告げる慣例の行事として行われ、河川敷一帯が炎に包まれる光景は雄大です。二〇一一年二月二〇日に行われたヨシ焼きには、道

鵜町から上牧まで、淀川の堤防には見学者で埋まっていました。 S・O 書いて欲しいと頼まれました。今までも扇子に書いて来ましたが、扇型の紙に字を書いてそれを扇子に仕立てる方法です。送られてきた「扇子」は有名な方が作った「江戸扇子」。

とけいそう

“これは大変、江戸扇子に文字を書く”

4 月度行事予定
“高槻森林観光センター：田能”
新緑の澄み切った空気の中で「総会・親睦会」開催！！
月 日：平成 23 年 4 月 21 日 (木日曜日)
集 合 場 所：西武高槻店前 東京三菱 UF J 銀行前 9：55
(10:00 に高槻森林観光センターへバスで出発します。)
会：高槻森林観光センター 研修室 10:30~11:30
親 睦 会：高槻森林観光センター 概の郷荘 11:30~15:00
そ の 他：詳細は 3 月 17 日の例会で説明します。

③ 点火時刻は 9 時。
鵜殿のヨシ原
宇治川・桂川・木津川が合流し、淀川となる合流地点から 5 km ほど下った淀川右岸にある、長さ約 75 ヘクタール、長さ 2.5 km と、淀川流域でも最大の葦の群生地であり、野鳥や動植物の貴重な生息地ともなっている。昔から多くの歌人に詠まれていて、紀貫之の『土佐日記』にも記述があり、谷崎潤一郎の『蘆刈』の舞台が鵜殿のヨシ原とも言われている。



鵜殿のヨシ原焼き

鵜殿では毎年二月中旬にヨシ原の保全と害草・害虫の駆除、不慮の火災防止等

日本国内では京都を主産地としてきらびやかな京扇子が作られています。その後、江戸に伝わり、洪めでさつぱりとした絵柄の江戸扇子が誕生しました。現在では東京を中心に数人の職人さんが伝統の技法で扇子を作り継いでいます。仕立てを二人で行う為に数に限りがあり、殆ど町場で見られる事はない希少なものです。(日本職人名工芸資料より)

今回、アメリカ人へのお土産にする、扇子に文字を

書くと、疲れました！
T. O



3 月度行事予定
“新たな福祉のまち：郡家本町”
月 日：平成 23 年 3 月 17 日 (木日曜日)
集 合 場 所：JR 摂津富田駅北
高槻市営バス乗り場① 10：00 発 南平台經由奈原行き
下車バス停：二中西
(現地集合場所：ふれいす Be 10:15)
訪 問 先：高槻地域生活総合支援センター「ふれいす Be」
高槻市立療育園 (肢体不自由児通園施設)